

生物生産学部の場合

— あるチューターの試み —

生物生産学部 川上英之

(62年度チューター)

昭和63年10月、一般教育課程を終えた学生達が生物生産学部へ進学して来た時のことである。『先生、どうして僕らだけがこんなに冷遇されなければならないのですか？僕らの先輩の3年生は英語1単位落としても進学出来たと言ってますよ』

『私の先輩は社会の分野が2単位足らなかったけど学部へ来れたと言ってますが私達はダメなんですか？それはなぜなんですか？』

『いいかい、君達には入学した当時のガイダンスで、今、君達が言っているような特別進学規定は廃止になったから十分気をつけるように、あれほど言っておいたのを忘れたのかね？福山時代は東千田キャンパスと100キロ以上離れており、通う事が出来ないこと、それに総合科学部とそばにあった教育学部福山分校の協力を得て、今君達が挙げたくらいの単位不足は福山キャンパスで補う事が出来たんだ。それが、君達の時代から学部が西条キャンパスに移り、福山分校を利用することが出来なくなったんだよ。だから仕方ないのだ、それにこのことは昨年総合科学部との話し合いで決められ、うちの教授会でも決まった事なんだ。』

『先生、私達これからの半年で取らなければならない学部の共通基礎は必修のほか、選択を3科目分取ればいいんでしょ？だいぶ時間にゆとりがあるから、ここと東千田を往復します。だから皆と一緒に進学させて下さい。』

『いいか？よく時間割を見ろよ、毎日午後1時10分からは必修の実験がビッシリなんだぞ、それに東千田とこことをどうやって往復

するつもりなんだね？君達の事だから、クルマやオートバイを飛ばそうと言うんだろうがそれでも1時間はかかるぞ、昼休みの時間は50分しかないんだぞ。君達のような考えだと必ず事故でケガするか場合によっては死ぬぞ、無理はやめろ。それよりもここは一番腹を決めて、皆と遅れた分を皆が出来ないような有意義な事を何かやったらどうだ？例えばToeful、500へ挑戦するとか、水産関係の調査船に乗ってアルバイトしながら実地勉強もいいぞ、その気なら幾らでも実現出来るよう応援するよ、水産の先生も居るんだから。この農場でもアルバイト出来るんじゃないかなあ？』

このようなやりとりが、時にはコンニャク問答が英語1単位、あるいはその他の科目1科目分くらいの単位不足で進学を許されなかった学生達との間で延々と続いたことが今でも生々しく思い出される。中には、父兄共々やって来て延々と粘る学生も幾人か居た。このような学生はたいてい自立心に欠け、親の意のままの生活で満足して居るようで、もっと自分の人生を自ら開拓してほしいものだと歯がゆい思いを禁じ得なかった。しかし、チューターと言う立場に立たされると、何とかしてやらなければならないのかなあと考えもしたり、複雑な気持ちになるものだと一人苦笑いした事を思い出す。我々62年度チューターは水産、畜産、食品の各系から一人ずつ三人で編成され、総合科学部から引き継いだ学生は62年入学生139名、それ以前に入学し留年していた17名の合計157名であった。このうち学部への進学が出来ず、しかも1年前にはあった『特別進学規定』が廃止になった

事をうっかり忘れてしまって慌てて私達チューターの所へ泣きついて来た学生は30名近くであった。結局これらの学生は、進学が許されなかったのは言うまでもない事である。しかし、これらの学生をこのまま放っておく訳には行かないと考え、三人でどう対処するかを話し合った。結論は、(1)このまま進学出来なかった学生を放っておくとセルフコントロール出来ない以上墮落して行くことは目に見えている。ここはうまくリードしてゆく必要がある。(2)そのための具体策はどんなことが考えられるか？『災いを転じて福と成す』と言うことわざがあるように、順調に進学した学生には出来ないことを精一杯やらせることがよいだろう。例えば、Toeful, 500へ挑戦させるとか、あるいは水産に興味をもっている者には、アルバイトを兼ねていろいろな調査に参加させたり、試験場や漁業協同組合で水産の実際を学ぶのもよい。畜産関係でも農場など、先輩がいて面倒を見てくれる所があるだろう。しかし、こんなことよりも、もっと我々チューターが直接してやれる事はないだろうか？学部の共通基礎を単位を認定する方向で、出来る限り受講させる手ではないか？と言うことで意見が一致した。早速、平素ほとんど見たこともない学生便覧と首っ引きで、にわか勉強を始めた。便覧には『進学していない学生は専門科目を受講できない』とはどこにも書いてない。学務係にたずねても『受講させないという規定はなく、教授会と担当の先生の了解が得られれば単位を認める方向で受講させることは可能です。ただ、学生実験も含めると進学規定と言うものが何の意味も持たなくなりますよ』と言う見解であった。学生実験については、既にクラス編成を終えてスタートしており、しかも総合科学部での講義は午後もあり事実上無理であった。

そこで、我々は教授会に対して『進学出来なかった学生にも希望すれば学生実験を除いて可能な限り単位を認める方向で受講させてやってほしい』旨提案し了承された。早速、

学生達にはこのことを伝え、条件付きで受講させる事にした。(1)受講するに当たって担当教官の許可を得ること、(2)残っている一般教育科目をこれからの半年で是が非でも取り、来年4月には、学部へ進学するよう最大限の努力をすること、(3)広島と西条を往復することになるので、両キャンパスで受講する科目がある場合は、3、4時限目は必ず空けて通学の時間に当てて事故を起こさないこと、(4)学生実験は取れないから、来年4月から3年には進学出来ない。この点を十分認識しておくこと、であった。

生物生産学部の場合、61年度生までは、キャンパスが福山市と遠距離に位置し、そのため他の学部のように、第3セメスター(2年前期)から一般教育科目(総合科学部)と専門科目(各学部)を相互乗り入れの形で開講することが出来なかった。そこで、一般教育科目を第3セメスターで終わらせ、第4セメスターから専門科目が福山キャンパスで行われて来た。

現在、専門科目は第四セメスターで、別表のように『学部共通基礎科目』を、全員が履修し、第五セメスターから、水産、畜産、食品系のいずれかの専門科目の講義を受けることになっている。このやりかたでは一般教育科目は1単位も残さず、取得してからでなければ専門科目を受講出来ず、1単位でも落とすと、そのために1年間余分に過ごさなければならぬ。この1年をどのように過ごすかが学生にとって大きな問題となる。もちろん、自らをコントロールして有意義な生活が出来れば問題はないが(本来そうあるべきと考えるが)、それが出来ずズルズルと無為に留年を重ねる学生が多くなって来た。このような過程を経験して、生物生産学部の前身である水畜産学部の時代に現在の総合科学部との間で『特別進学規定』を設け、教育学部福山分校の協力を得て、福山分校で教育出来る科目については福山で再受講し、これを一般教育科目の単位に充当する方策が取られて来た。ところが、63年度に生物生産学部が西条キャ

ンパスへ移転するため、この方策が事実上取れなくなり、62年度生から『特別進学規定』を廃止することになった。

しかし、実際に西条キャンパスで学生を受け入れて見ると、東千田—西条間は、通学出来る距離となり、これまで述べて来たような学生からの主張に出会い、我々62年度チューターは総合科学部が移転するまでの過渡的措置として進学出来なかった学生に対して『実験を除く生物生産学部の共通基礎科目を出来る範囲内で受講させる』ことにした。実はこうした措置が総合科学部で、生物生産学部において一方的に進学規定を改ざんしたと誤解されたようである。しかし、我々チューターとしては学部内措置として総合科学部に迷惑をかけないで処理でき、しかも学生達に臆することなく自信を持って生活させる事のできる唯一の方法であると判断したもので、現在でも間違った選択はしていないと自負している。

このような我々62年度チューターのとった措置やこれに対する批判、それに第5セメスターにおける、半年おくれの学生の処し方に対する議論が引き金になって一般教育と専門教育のあり方について、学部教務委員会が中心となって、現在精力的に検討されている。また、今年度は学部長間の話し合いで英語1単位だけを落とした学生は、特別に進学させる措置が取られている。

総合科学部が西条キャンパスへ移転したあかつきには、このような場当たりの臨時措置ではなく恒久的な方策が取られることになる。それまでは、毎年状況に応じて最良の措置を考えて行かざるを得ない。

聞き及ぶところによると、総合科学部の移転が更に遅れそうとのこと、学生達にとっても我々教師にとっても、21世紀へ向けてじっくりと落ち着いた教育がなされる日はまだ遠いようである。

別表

専門教育科目
学科共通基礎科目
1. 必修科目

授業科目	単位	毎週授業時間数				計
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
生物生産学概論	2	2				2
生物統計学	2				2	2
生物生産学各論	2		2			2
基礎生物学実験Ⅰ	1				3	3
基礎生物学実験Ⅱ	1				3	3
食糧資源論	2				2	2
一般微生物学	2				2	2
生物化学Ⅰ	2			2		2
基礎化学実験Ⅰ	1				3	3
基礎化学実験Ⅱ	1				3	3
計	16					

2. 選択科目

授業科目	単位	毎週授業時間数								計
		1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
水質学	2				2					2
遺伝学	2				2					2
食糧生産管理学概論	2				2					2
動物生態学	2				2					2
動物生理学	2				2					2
植物栄養学概論	2				2					2
生物化学Ⅱ	2				2					2
生物化学Ⅲ	2				2					2
公衆衛生学	2							2		2
計	18									

このうちより 6単位 選択必修

平成元年度 生物生産学部学生便覧より